

授業実践への衣生活情報に対する重視度の導入 ー衣生活診断教材の開発と活用ー

滝山桂子*・松尾美江**

(平成19年9月28日受付；平成19年11月7日受理)

要 旨

近年、大量・多種の商品・情報がでまわり、それ故、生活の選択肢が多様化している。衣生活は情報・流行の影響をとみにうけている。本研究は、衣生活情報に対する重視度を測定する方法を開発し、中学生を対象とした授業実践に導入することを目的とした。

まず、衣生活行動の要素と情報選択の特性に着目した衣生活診断教材を開発した。次に、衣服の購入時における重視度を、授業実践前後にコンジョイント分析を用いて測定し、重視度の変容を比較した。

その結果、衣生活の場面、衣生活のつながり、衣生活の問題点判定の3つの柱から構成した教材を開発した。この教材を使用した中学生対象の授業実践から、プラスイメージの記述が多かった。授業実践前後の調査から、重視度の変容に関する4つのタイプを析出した。

KEY WORDS

重視度 value level, 衣生活情報 clothing life information

衣生活診断教材 teaching material of diagnosis of clothing life,

授業実践 teaching practice, 中学生 junior high school students

1 目 的

情報誌やインターネットなどから、大量・多種の情報が配信され、それ故、生活の選択肢が多様化している。中学生は、情報・流行の影響をとみに受けている衣生活をどのように受け止め、衣生活情報を選択しているであろうか。個々人が構築している衣生活情報の中で、特に重視している衣生活行動の要素を知ることは、中学生が自分の衣生活を振り返り、衣生活に対する興味・関心が高まると考えられる。

著者らの先行研究⁽¹⁾⁽²⁾において、中学生が構築している衣生活情報の実態を示した。衣生活情報の調査項目を衣生活行動の要素と情報選択の特性を組み合わせ設定した。衣生活行動の要素として、入手、着用、手入れ、保管、処分を設定した。また、情報選択の特性を、経験性、アドバイス性、関心性、ネットワーク性、評価性とした。これらを組み合わせ作成した衣生活情報の調査項目は、中学生の衣生活学習に関連のある内容とした。情報選択の特性を取り上げることにより、生活主体が自己のニーズに沿った能動的な情報獲得の手だてを明確に認識できると考えられる。上記の先行研究⁽¹⁾⁽²⁾で、学年・性別と情報選択の特性との間に特徴のある関連を析出した。即ち、1年生女子のネットワーク性、2・3年生女子の関心性、2・3年生男子の経験性が明らかになった。しかし、1年生男子には明瞭な特徴を把握できなかった。同調査で衣服選択の情報源を尋ねたところ、1年生男子の59.10%は家族・親戚をあげており高かった。また、岡村(1997)⁽³⁾は、男子において、外衣を自分で購入する人が50%を越えるのは、中学2年生であると述べている。中学校1年生の男子は、衣生活についてまだ親が中心で、生活自立の前段階であり、衣生活情報の取得にあまり積極的でないと理解される。よって、衣生活学習の準備状態を生徒が自分自身で把握することをめざす衣生活診断教材の開発は意義があると考えられる。

また、衣服を購入する際には、様々な衣生活情報を参考にして、これに対する重視度にウエイトをつけて意思決定すると考えられる。品質がよく価格も安いなど、どの条件も満たすことは稀で、人々は通常、価格が安ければ品質が落ちるなど、二律背反の場面に立たされることが多い。その場合、品質と価格のどちらをどの程度重視するかという意思決定を迫られる。このように、人間の生活行動は、多要素から成り立ち、これらの要素に対する優先順位の高低をふまえて意思決定が行われる。授業実践の場面では、学習者は授業による刺激を受け、これまでの生活行動の要素に対する優先順位が入れ替わった場合、生活行動に変化が生ずる。一方、マーケティング研究において、複数の要素の優先順位を明らかにする分析手法としてコンジョイント分析⁽⁴⁾⁽⁵⁾がある。コンジョイント分析では複数の要素間の

重視度を評価できるという特徴を生かし、これを授業実践の中で活用することにより、衣生活情報に対する重視度の測定が可能ではないかと考えられる。従来のアンケート調査においてありがちなこととして、商品の要素に対する重視度を尋ねた結果、どの要素も重要という場合があるが、これでは、調査の意味がなくなる。この場合、現実にはありえない理想的な要素の組み合わせを望む結果となる。実際の場面では、あちらを立てればこちらが立たずといったシーソーゲームを繰り返しながら意思決定することが多い。コンジョイント分析は、個々の要素についての希望を尋ねる設問ではなく、商品全体に対する評価から、商品のもつ個々の要素に対する重視度を推定する手法である。この手法を授業実践の評価に導入することは、回答者の本音にアプローチすることができ意義があると考えられる。

そこで、本研究は、自立した生活の営みという点で発達途上である中学生を対象として、衣生活情報に対する重視度の測定法を開発し、これを授業実践に導入することを目的とする。重視度の測定法として、前述した衣生活診断教材の開発とコンジョイント分析による調査を取り上げる。なお、衣生活情報について、衣生活行動の要素を中心に検討する。

2 方法

2.1 衣生活診断教材の開発

衣生活診断をねらいとしたマルチメディア教材の開発にあたり使用した作成ソフトおよび作成過程について記す。

使用したソフトは「プレゼンテーション作成ソフトKiT97」である。このソフトは、1988年頃から加藤譲氏が現場の教職員などの意見を取り入れながら開発してきたプレゼンテーションツールで、開発当時から分かりやすいプログラミング言語で作品が作れること、マウスのボタン操作だけを生徒とのインターフェイスにしていること、パソコン通信を使って、無償で配布しているという教育現場サイドに立った開発方針が受け、人気のあるソフトである。なお、作成期間は2002年3月～4月である。

作成過程を次に示す。

①KiT97の操作方法の習得

②教材に盛り込む素材作成

- i. Windows Meのアプリケーションソフトであるペイントによるイラスト作成
- ii. スキャナやデジタルカメラなどを用いた取材

③出来上がった教材のCD-ROM化

①は、マルチメディア教材作成ソフト「KiT97 マルチメディア作成ガイド」(永野和男, 1997)^⑥を参考にしながら、本教材とは違う教材で練習し、技術を習得した。プログラミング言語を入力する必要もなく、比較的容易であった。

②のiは、キャラクターや素材をペイントソフトで作成した。今日、コンピュータの文書作成等のために挿入するカットをカット集として、フリー素材で多様なホームページからダウンロードできるが、極力使用しないように努め、登場させるキャラクターは自作で行い、オリジナリティあふれる、あたたかみのあるものを目指した。

②のiiにおいては、スキャナはEPSON, GT-8200Uを、また、デジタルカメラはOLYMPUS, CAMEDIA, C-200ZOOMを使用した。

③で、一括して教材作成用に保存していたフォルダを、CD-RW (SONY VAIO, CD-RW DRIVE, PCGA-CDRW52)で保存した。

作成した教材の容量は、第1次の教材が、12.7MB、第2次の教材が9.95MB、画面数は第1次の教材が147画面、第2次の教材が62画面であった。

なお、本論文では、第1次の教材を中心に取り上げる。

2.2 コンジョイント分析による重視度の測定法

衣生活診断教材を活用した授業実践の前後において、衣服購入時の衣生活行動の要素における重視度の測定を試みた。コンジョイント分析を用いて、授業の直前・直後・授業実践後3～4週間後に調査した。調査で使用したコンジョイントカードでは、衣生活行動の要素を6種取り上げた。この6種を属性と称し、属性ごとに程度の異なる2つずつの水準を設定した。即ち、「組み合わせがあまりない・たくさんある (計画性)」, 「値段が高い・安い (入手)」, 「デザインが流行のもの・自分に似合うもの (着用)」, 「洗濯方法が難しい・お手軽 (手入れ)」, 「しまうことが面倒・お手軽 (保管)」, 「処分が難しい・簡単 (処分)」の6属性、2水準とした。コンジョイントカードの一部を図1に示した。コンジョイントカードは、コンジョイント分析における直行計画により作成し、8枚とした。直行計画に

ついて説明する。6 属性 2 水準全ての組み合わせは、カードの数＝2（属性 1 の水準数）× 2（属性 2 の水準数）× 2（属性 3 の水準数）× 2（属性 4 の水準数）× 2（属性 5 の水準数）× 2（属性 6 の水準数）＝64（通り）となる。回答者に 64 通りについて評価を求めることは困難である。そのため、実験計画における直行配列表に従い、交互作用効果をもたせないようにすることで、提示するカード数を減らした。その結果、8 枚のカードとした。これを調査内容とし、生徒が図 1 の○の中に購入希望の順に番号をそれぞれ記入するように教師が指示した。属性の各水準が単独で（仮想）商品の選好に影響を及ぼす場合、その効果を主効果と呼ぶのに対し、属性が束になり、特定の水準の組み合わせにより影響を及ぼすことを交互作用と呼ぶ。

データの集計処理および分析には、SPSS10.07J for Windows および SPSS のアプリケーションソフトであるコンジョイントを用いた。









 出席番号 	組合せ：あまりない 値段：高い デザイン：流行のもの 洗濯方法：お手軽 しまうこと：お手軽 処分：難しい	 出席番号 	組合せ：たくさんある 値段：高い デザイン：自分に似合うもの 洗濯方法：難しい しまうこと：お手軽 処分：難しい
 出席番号 	組合せ：たくさんある 値段：安い デザイン：流行のもの 洗濯方法：お手軽 しまうこと：面倒 処分：難しい	 出席番号 	組合せ：あまりない 値段：高い デザイン：自分に似合うもの 洗濯方法：お手軽 しまうこと：面倒

図 1. 授業実践で用いたコンジョイントカード（8 枚中 4 枚）

3 結果と考察

3. 1 衣生活診断教材の内容

開発した衣生活診断教材は、衣生活行動の中でどの要素に関する衣生活情報を重視して衣生活を送っているのかを診断する内容とした。衣生活行動の要素として、既報^②で取り上げた 5 つの要素に新たに衣生活の計画を加えた。即ち、衣生活の計画、入手、着用、手入れ、保管、処分とし、自分の衣生活の実状を理解する構成とした。

本教材の構想を、以下の 3 点した。

- ① 衣生活行動の要素を知る契機となる教材であること
- ② 生徒自身が自分自身の衣生活の実状を知ることを通して、衣生活に興味・関心を抱くようにはたらきかける教材であること
- ③ 衣生活行動の要素に対する重視度の診断により、今後の衣生活について方向付けができること

教材には 3 つの柱として、「衣生活の場面」「衣生活のつながり」「衣生活の問題点判定」を設定し、教材の全容をフローチャートにて示した（図 2）。次に、教材の 3 つの柱別にその内容を述べる。

1 番目の柱である「衣生活の場面」では、衣生活行動に関連して 7 つのキャラクターが登場する構成とした。内訳は、既報^②に基づき、衣生活行動の 5 つの要素を基本とし、これに 2 つの新たなキャラクターとして衣生活の計画と、何も関与しない無関心を加えた。即ち、7 つのキャラクターを、衣生活の計画、衣服の入手、着用、手入れ、保管、処分、無関心とした。登場するキャラクターの紹介を通して、衣生活行動の要素を理解する展開とした。

2 番目の柱である「衣生活のつながり」では、1 番目の柱である「衣生活の場面」で設定したキャラクターたちの 1 日という場面として 5 つ設定した。衣生活行動の要素が相互につながっている場面があることを具体的に理解するストーリーを作成した。例えば、入手と処分のつながり、手入れと保管のつながりの具体的な場面を示した。「衣生

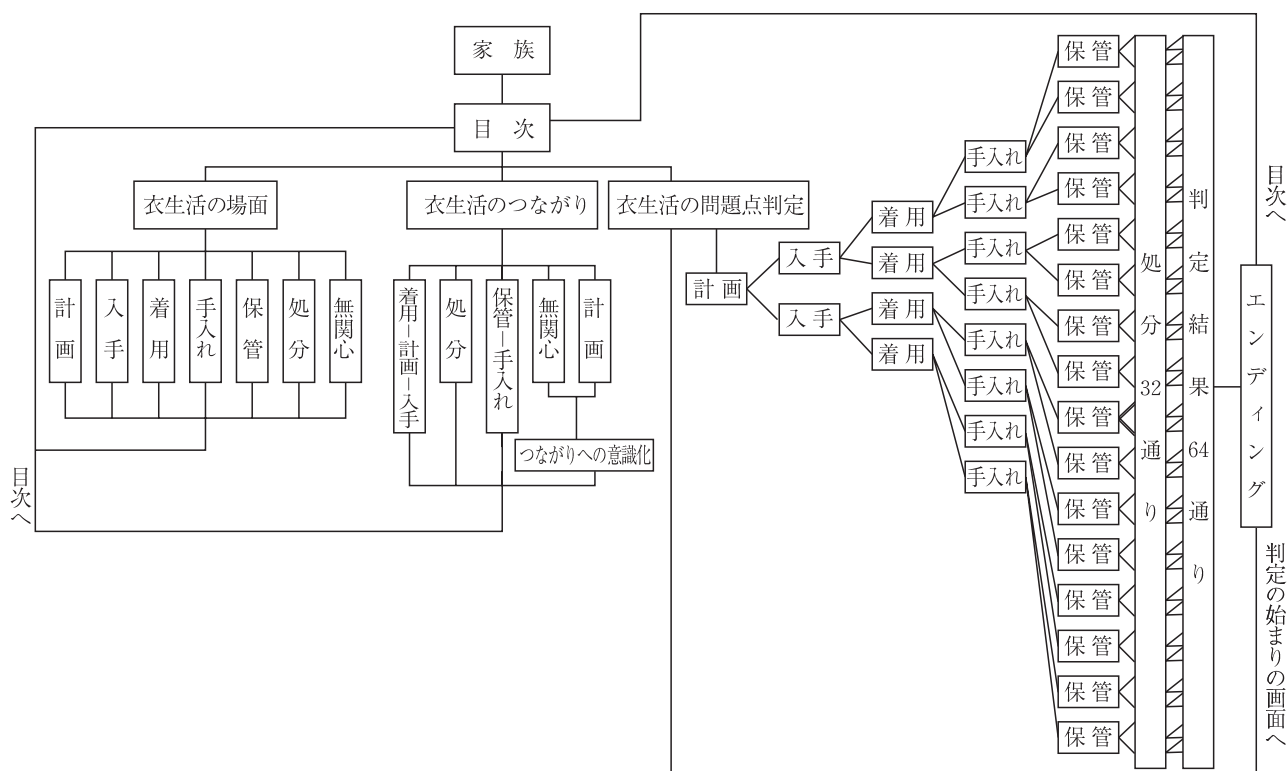


図2 衣生活診断教材のフローチャート

活のつながりを意識しよう！」という画面で結び、目次へ戻る構成とした。

3番目の柱である「衣生活の問題点判定」では、1番目の「衣生活の場面」で設定したキャラクター（無関心を除く）に対応した衣生活行動について各6つの質問を設定した。これらの質問は、著者らの先行研究(2)の調査項目で設定した、衣生活行動の要素と情報選択の特性を組み合わせた46の調査項目を基本とし、これに衣生活の計画を加えた6つの要素それぞれ6つの項目で合計36項目を設定した（表1）。その各質問に「当てはまる」「当てはまらない」で回答を求める構成とした。「当てはまる」の数が4つ以上と、3つ未満のボタンを設定した。計画、入手、着用、手入れ、保管、処分の6つの場面での回答が終了すると、判定画面へ進み、ここで、「あなたの中に住んでいるキャラクター」が出力される構成とした。この判定結果は各画面において4つ以上「当てはまる」と答えた画面に対応した判定結果とし、相当する衣生活行動の要素に対応したキャラクターが登場して結果を示すようにした。また6つの画面とも、「当てはまる」が3つ未満の場合は、衣生活に対して「無関心」という判定結果とした。判定される結果のタイプは、合計で64タイプ（ $2^6=64$ 通り）設定した。これらの操作により、重視する衣生活行動の要素を自己診断できる教材の構成とし、図3～図12に主な画面を示した。

表1 衣生活診断教材の質問項目

衣生活行動の要素	項 目
計 画	①それぞれの季節の衣服をどれくらい持っているかだいたいわかる。 ②衣服を買うときは、流行のものより、自分に似合うものを選ぶようにしている。 ③衣服を買うときは必ず試着をする。 ④衣服を買うときは価格の他にチェックすることがあと2つくらいある。 ⑤衣服の衣替えはキレイに丁寧にしている方だと思う。 ⑥衣服を長く清潔に保つための工夫を心がけている。
入 手	①衣服を買うのがとても好きである。 ②衣服を作ることに関心がある。 ③衣服の貸し借りをよくする。 ④衣服を買うときは自分に必要かよく考えてから買う。 ⑤衣服を買うときは必ず誰かに相談する。 ⑥着ている衣服をどこで買ったか聞かれることがある。

着 用	①自分にとってちょうどよいサイズが分かる。 ②自分に似合う色が知りたい。 ③テレビタレントみたいな派手な衣装を着てみたい。 ④他の人の着ている衣服が気になる。 ⑤制服は、学校だけではなく、結婚式やお葬式などにも着ていくことができ便利だと思う。 ⑥衣服の着方について、他の人から相談されたことがある。
手入れ	①洗濯機を使って洗濯をしたことがある。 ②クリーニング店に自分で衣類のクリーニングを頼んだことがある。 ③衣服が破れたりほつれたりしたとき、自分で補修した。 ④制服のスカート丈やズボン丈を自分で補正する自信がある。 ⑤洗濯洗剤の使用量の目安を守ることが環境を守ることに繋がることを知っている。 ⑥洗濯をするときは「取り扱い絵表示」というものを見る必要があることが分かる。
保 管	①制服の衣替えは自分でしている。 ②制服以外の日常着などの衣替え（衣服の入れ替え）は自分でする。 ③衣服のしまう場所が衣服の種類によって決まっている。 ④どの季節の衣服がどこにしまっているか分かる。 ⑤衣服の型くずれしないように衣服をしまっている。 ⑥衣服をしまうときは衣服の虫食いを防ぐための工夫があることを知っている。
処 分	①小さくなった衣服はなるべく人にあげるようにしている。 ②古くなった衣服やいらなくなった衣服を再利用したことがある。 ③古着を買ったことがある。 ④衣服の再利用の方法を3つ以上言える。 ⑤フリーマーケットで衣服を買ったことがある。 ⑥フリーマーケットで衣服を売ったことがある。

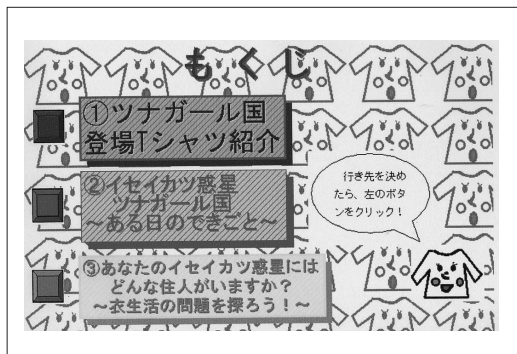


図3 教材画面①目次：教材全体



図4 教材画面②キャラクター紹介：処分



図5 教材画面③キャラクター紹介：無関心

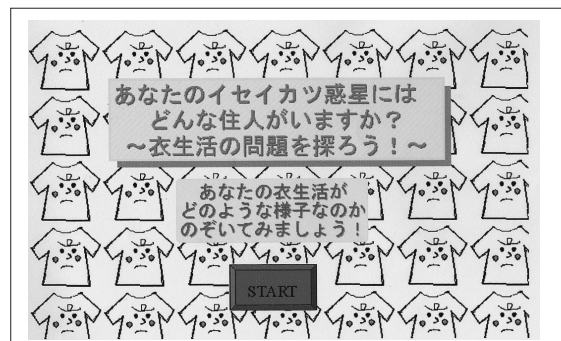


図6 教材画面④スタート

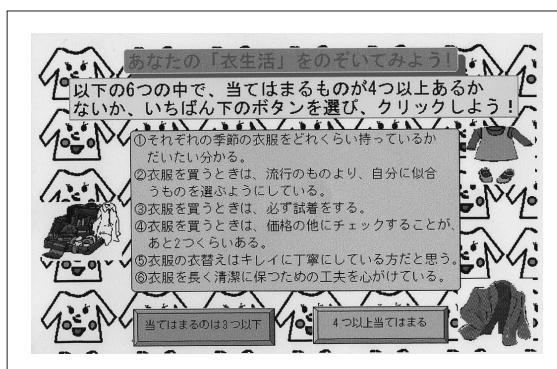


図7 教材画面⑤診断画面：計画

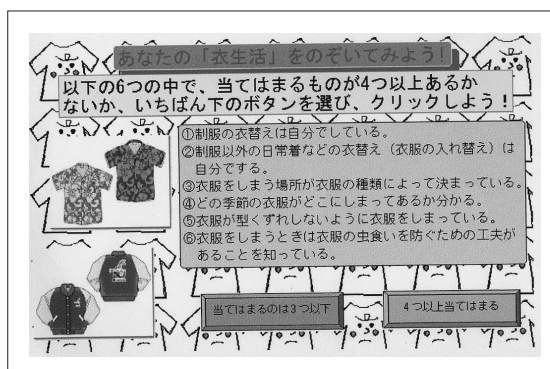


図8 教材画面⑥診断画面：保管

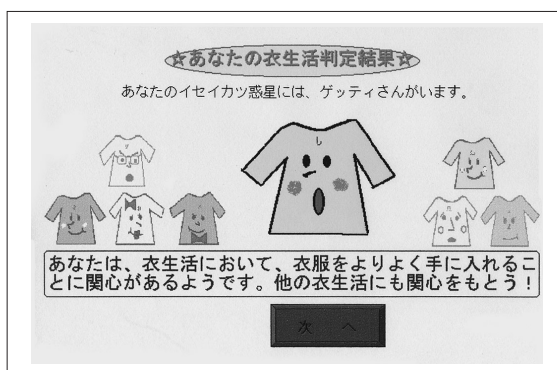


図9 教材画面⑦判定結果：入手重視

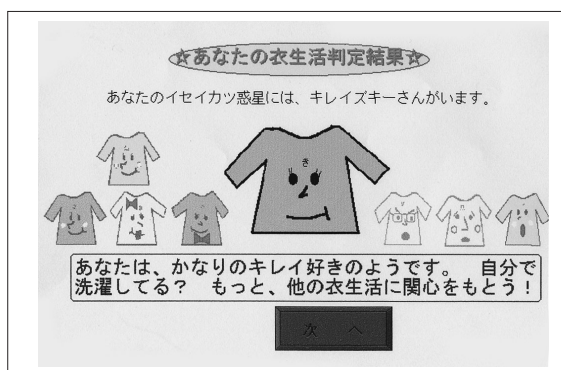


図10 教材画面⑧判断結果：手入れ重視

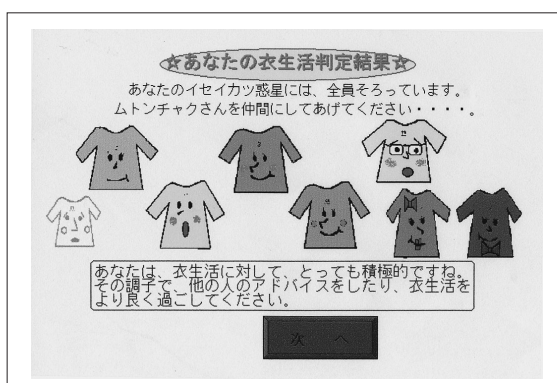


図11 教材画面⑨判断結果：全て重視

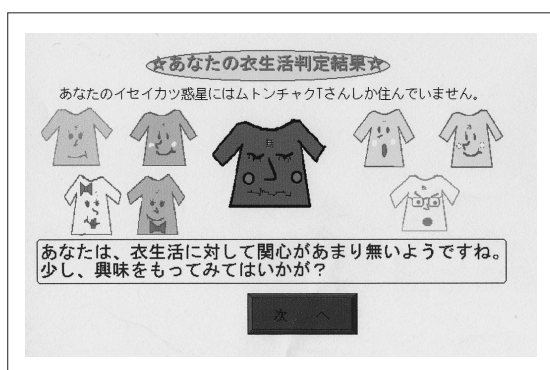


図12 教材画面⑩判定結果：無関心

3. 2. 授業実践の概要

開発した衣生活診断教材を活用した授業実践を以下に示す。

授業対象は新潟県上越地域における公立中学校3校であり、あわせて4学級を対象とした。生徒数は合計127名であり、男子57名、女子70名であった。このうち有効回答率は90.6%で、男子51名、女子64名で合計115名であり、これを分析対象者とする。授業は、平成14年6月～7月に実施した。

学習内容と学習過程に焦点化した授業の大綱的な流れを以下に示す。

単元名：授業実践「衣生活を楽しく気持ちよく」

学習指導案〈第1次略案〉

題目名：衣生活ってどんな生活～自分の衣生活の問題を探ろう～

目標：衣生活や衣生活行動の要素におけるつながりを理解し、衣生活について自覚をもち問題点を見いだす。

導 入	○「衣生活」という言葉からの連想ゲームをする。 ⇒「衣生活」から連想することの内容や数により、これまでの自分自身の衣生活に対する意識に気づくようにさせる。
展 開	○衣生活診断教材を用いて、ペアになって学習を進める。 衣生活の場面（衣生活行動の要素）には、衣服を「入手すること」、「着ること」、「手入れすること」、「しまう（保管する）こと」、「処分すること」、「計画すること」があることを確認する。 ○衣生活の場面がつながっていることを確認する。 ○衣生活の場面の中で自分が重視している項目を判定する。 ⇒判定結果を見て、どの場面を重視しているのか、また、重視していないのはどの場面だったかを手がかりに問題点を見出す。 ○自分以外の友だちの判定にも関心をもち、色々な衣生活の送り方があることを理解する。
ま と め	○本時に学んだことや判定結果を踏まえて「わたしの衣生活標語」を作る。

学習指導案〈第2次略案〉

題目名：この表示チェックするときどんなとき～衣生活と表示のかかわりを発見しよう～

目 標：衣生活情報の一つとして表示に目を向け、表示の必要性和衣生活行動の要素とのつながりについて理解を深める。

導 入	○衣服の購入をするときに表示を確認することの必要性に気づく。 ↓（ロール・プレイング） ●衣服購入後の失敗例の提示
展 開	○衣服についている表示（「取り扱い絵表示」、「組成表示」）やマーク（「ウールマークなどの品質表示」、「色落ちの注意を促す表示」）について、復習する。 ○衣服の表示やマークが必要になる場面を確認する。
ま と め	○第1次同様、「衣生活」という言葉からの連想ゲームをする。 ⇒学習した内容をふりかえり、連想した内容や数などを参考に、自分自身の衣生活に対する意識が変わったか確認作業をする。

3. 3 衣生活診断判定結果

衣生活行動の要素に対する認識を明らかにするために授業実践の第1次で実施した衣生活診断教材を用いた「自分の衣生活で重視している場面」の判定結果について以下に示す。授業対象者115名が判定した結果を表2に示した。

延べ270項目の中で、衣生活行動の要素として最も多い項目は、「保管65名（56.5%）」であり、半数以上の生徒が該当していた。次いで「着用56名（48.7%）」で半数近い生徒が関心を示していた。

表2 衣生活診断の判定結果
複数回答 N=115

	度数	%/115
計画性	41	35.7
入手	40	34.8
着用	56	48.7
手入れ	33	28.7
保管	65	56.5
処分	21	18.3
無関心	14	12.2
計	270	234.8

「計画性41名（35.7%）」と「入手40名（34.8%）」については、約3分の1の生徒であり、処分については21名（18.3%）で、衣生活と環境問題の結びつきへの関心は低いことが明らかになった。6つの衣生活行動のどれにも無関心な中学生は14名（12.2%）で、1割強であった。

次に、授業対象生徒115名の一人当たりの項目数を示した。項目数の合計は、最も多い生徒で6（衣生活行動の5要素および計画性）、少ない生徒で0（無頓着）であった。1項目判定した生徒が最も多く41名（37%）であり、次いで、3項目の24名（21%）、2項目の20名（17%）、4項目の13名（11%）であり、本研究で開発したマルチメディア教材による衣生活行動の要素に対して、概ね、75%以上の生徒が、1～3項目の要素を重視していた。

また、自由記述の中から衣生活診断教材に関する項目を抽出した。衣生活診断教材に対する生徒の評価について示す。まず、授業中に使用したワークシートの中で、感想の欄に記入していた生徒は、115名中97名であった。そのうち、教材・教具など指導法に関する記述は38名と最も多かった。その中で、衣生

活診断教材に対する感想は、「コンピュータ（CD-ROM）を使った授業は楽しかった。（19名）」「キャラクターがかわいかった。（11名）」、「コンピュータでいろいろ説明したやり方は分かりやすかった。（5名）」など、全てプラスイメージの感想であった。また、衣生活行動の諸要素に対する関心についての記述を示す。「服はただ着るだけでなく、その後の、洗う、保管、処分のこともよく考えないといけないということを知った」「これからは表示にも気をつけて衣服を買ったり、洗ったりできるようにしたい」「服を買うときは、いろんなことを見て買うことがわかった」が各1名ずつおり、「保管の仕方とか、マークとかよく見ないで買っていたことに気づいた」（2名）であった。衣生活行動の要素に関する記述はあまり多いとは言えなかった。

以上より、今後の授業展開の工夫として、中学生の関心が高かった保管や着用の要素と他の要素とのつながりを考えた取り組みについては、今回開発した教材の2番目の柱である「衣生活のつながり」において取り上げているので、活用する。衣生活行動の要素につながりをもたせた生活場面を探し教材化していく必要が示唆された。また、自由記述において、開発した衣生活診断教材に対するプラスイメージが多かったことから、開発教材を授業の導入では自分が重視する要素について気づかせる手段として意義があったと考えられる。

3. 4 コンジョイント分析結果

重視度については、コンジョイント分析による結果を示す。クラス全体を一括した平均について、授業前後と授業3～4週間後において、衣生活行動に対する重視度を比較したところ、変化がみられなかった。そこで、個人のデータを追跡することとした。各調査対象中学校3校合わせて4学級より、各5名ずつ、計20名について、変容が顕著であった生徒を抽出した。その20名の授業前後と授業3～4週間後における重視度の変容を比較検討した結果、個別効用値（個人の属性に対する重視度）の変容の傾向が類似している4つのタイプを析出した。コンジョイント分析において属性とは、今回の研究では、計画、入手など衣生活行動の6つの要素を指している。以下に4つのタイプに属する生徒のうち、各1名の個別効用値のグラフを図13～図16に示した。

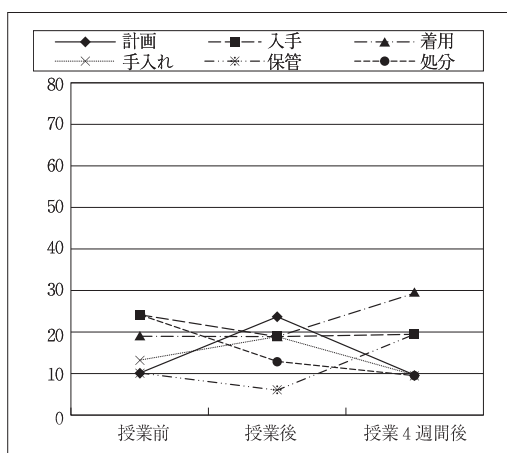


図13 重視度の変容 タイプ①平均型

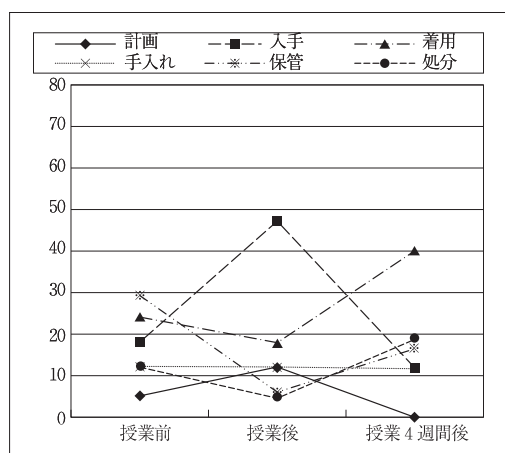


図14 重視度の変容 タイプ①変化型 i

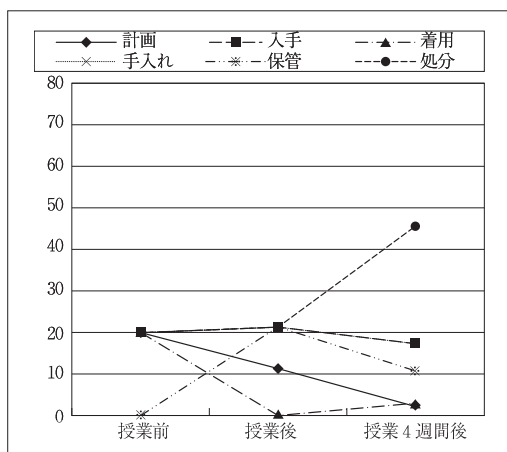


図15 重視度の変容 タイプ③変化型 ii

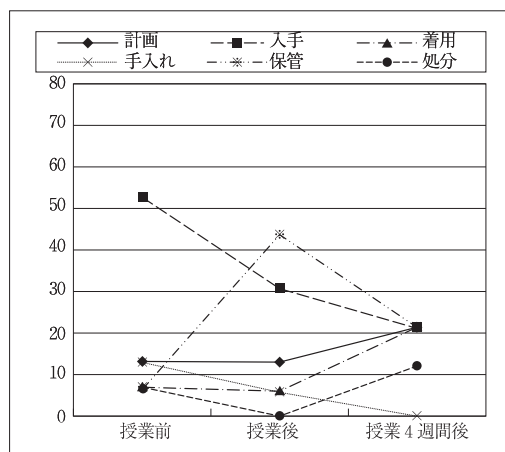


図16 重視度の変容 タイプ④収束型

タイプ①は、「重視度平均型」であり、授業前・授業後・授業後3～4週間において、あまり重視度に変容が認められず、平均的な重視度（30％程度）の生徒たち6名であった。タイプ②は、「重視度変化型 i」であり、授業前と授業後に大きな重視度の変容が認められた。即ち、衣生活診断教材の判定結果や授業内容による影響を受けた可能性のある生徒たち6名であった。タイプ③は、「重視度変化型 ii」であり、授業後と授業後3～4週間に大きな変容が認められた。即ち、授業後の生活が授業内容と組合わさって重視度の変化が推定される生徒たち4名であった。タイプ④は、「重視度収束型」であり、授業前・授業後・授業後3～4週間と時間を経るにつれ、重要度が平均的に収束していく生徒たち4名であった。

該当する生徒の感想の特徴を次に示す。

タイプ①（6人）：衣生活診断教材に対するプラスイメージの記述は、6人中2人にみられた。

タイプ②（6人）：衣生活診断教材に対するプラスイメージの記述は6人中4人おり、教材が重視度の変容に及ぼす影響が示唆された。

タイプ③（4人）：授業への肯定意識は、4人中2人に加えて、これからの衣生活に対する意欲に関する記述が4人中2人にみられた。

タイプ④（4人）：衣生活診断教材へのプラスのイメージの記述が4人中3人にみられた。

重視度が変化する場合（タイプ②、③、④）は、変化が少ない場合（タイプ①）に比べて、衣生活診断教材に対するプラスイメージの記述が比較的多く見られ、これからの衣生活に対する意欲が示唆された。どの要素を重視するかについて、学習や経験を通して変化したと推定される。また、コンジョイント分析においては、データ収集の困難さ、属性ごとの水準の設定方法が選好評価に影響を与えることなど、調査方法と分析方法の検討が課題として残された。

参 考 文 献

- (1) 松尾美江, 滝山桂子, 益本仁雄: 衣生活システムの概念を導入した中学生の衣生活の実態分析 (第1報) 学習関心と行動の契機 日本家庭科教育学会誌 48(3) p206-215 (2005)
- (2) 滝山桂子, 松尾美江, 益本仁雄: 衣生活システムの概念を導入した中学生の衣生活の実態分析 (第2報) 自己情報の保有状況および属性別比較 日本家庭科教育学会誌 48(3) p216-225 (2005)
- (3) 岡村美乃里, 諸岡晴美, 中川 眸: 小・中・高等学校における体系的な衣生活教育に関する研究 (1) -衣服購入および衣服整理についての調査から- 日本家庭科教育学会誌 40(1) p39-46 (1997)
- (4) 岡本眞一: コンジョイント分析とは『コンジョイント分析 SPSSによるマーケティング・リサーチ』岡本眞一編 ナカニシヤ出版 p2 (1999)
- (5) 真城知己: ニーズ調査の有効な武器-コンジョイント分析『SPSSによるコンジョイント分析 教育・心理・福祉分野での活用法』真城知己編 東京書籍 p7-22 (2001)
- (6) 永野和男と火曜の会: 『Kit97 マルチメディア作成ガイド』高陵社書店 (1997)

Introduction of a Value Level about Clothing Life Information into Teaching Practice

: Development and Use of Teaching Material concerning Diagnosis of Clothing Life

Keiko TAKIYAMA* • Mie MATSUO**

ABSTRACT

Recently, abundance of information and many kinds of goods have been appeared in the market, therefore, choices in life are highly diversified. Particularly, clothing life is influenced by information and fashion. This study is aimed to development of measure methods about a value level of clothing life information, and introduced it into teaching practice for junior high school students.

First of all, we developed a teaching material of diagnosis of clothing life aimed at an element of clothing behavior and characteristics of selecting information. Next, we measured the value level of buying clothes using the conjoint analysis before and after teaching practice, and then we compared the transformations of the value level.

As a result, we developed a teaching material composed of three sections, which are 1. the clothing life scene, 2. the connection of clothing life, and 3. the judgment of the problem about clothing life. There were many descriptions in positive image from the students when using the teaching material. Four types concerning transformation of the value level were extracted standing on survey the before and after the teaching practice.

* Division of Living and Health Sciences, Joetsu University of Education

** Hikoito Junior High School, Saitama Prefecture